

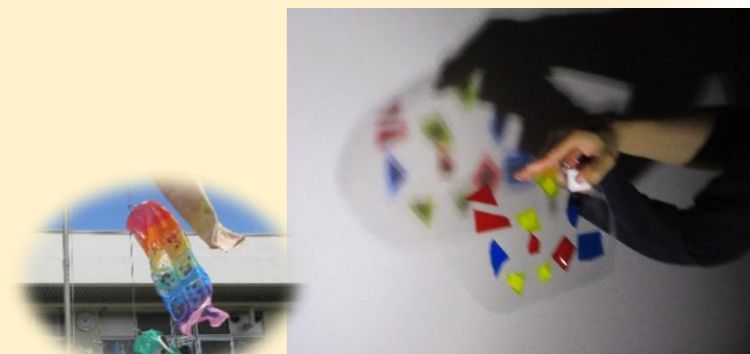
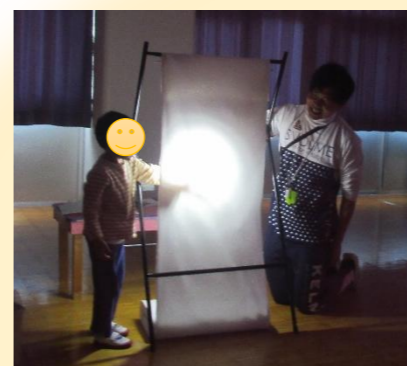
テーマ:かげとひかり

テーマ設定理由

3月“そらくみ”になる子どもたちが「そらって何マーク？」と話した時に「たいよう」「くも」などが出た中に「かげ」がありました。かげを知っている子もいれば、「保育園にあるでしょ、ほら白いの・・・(かべ)」「まだ寒いでしょ(手を空にあげて)つめたいよ・・・(かぜ)」という子もいました。“かげ”と“ひかり”とは何なのか知ること。そして影の不思議さを遊びながら、一人ひとりが感じてほしいと思い設定しました。



4・5月:かげってなあに?



自分の手や身体を照らしてみても、影が動いたり、大きさが変わったりしたことを楽しんだよ。影は黒しかないと思って色々、照らしたら、カラービニールが色の付いた影になったんだ。そこからこいのぼりをカラービニールやセロハンで作って、空にあげたんだ。

5-7月:かげで遊んでみよう



影がみんなわかった後は、遊んでみる中で“より身近に影を感じられるように”と思い部屋の物や公園で拾ってきた自然物を映してみたよ。そこから影の物をあてるクイズも始めました。

取り組みを通して

影や光がより子どもたちの身近であるためにはどうすると良いか。職員全体で話し合う機会を設けました。その中で担任同士の考え合ったことよりもたくさんのアイデアをもらい、懐中電灯を使った遊びの実践へ展開することができました。みんなで話し合うことでさらに遊びの広がる環境設定になってよかったなと思っています。また“影って黒しかないよ”“光はどうしたらよく見える?”など子どものつぶやきを聞きながら、子どもとともに考えていきました。大人主体でなく、子ども主体の保育の良さを改めて実感しました。

8・9月:ひかりを自在に操ってみよう

ビニールにマジックで子どもたちが好きな絵を描き、懐中電灯で映し出しながら影絵遊びしました。遊ぶ中で保育園の中でよく影絵が見えるのはどこなのか探検してみました。

懐中電灯を使って提灯を作ってみたくなった子どもたち。染めた障子紙を巻いて完成すると、提灯を使っておまつりごっこが始まったり、影を照らしたり、食事の灯りも提灯の灯りで食べてみることにしたよ。

